

アサリの垂下式中間育成法における 適正期間および適正収容密度

福島県水産種苗研究所
平成14～15年度福島県水産種苗研究所事業報告書

1 部門名

水産業一種苗研究(開発)－中間育成、アサリ
分類コード 19-06-21540000

2 担当者

安岡真司・平田豊彦

3 要旨

当研究所では殻長10mmの大型稚貝の生産手法として、海面を利用した中間育成技術を検討している。平成12年度からは当研究所で生産した殻長5mm稚貝をホタテガイの中間育成用の籠(底面:50cm×50cm)に収容し松川浦内に設置したやぐらに垂下する方法で中間育成試験を行っている。今回は、本手法の中間育成の適正期間及び収容密度を検討した。

(1) 中間育成期間

収容密度を6～10千個／籠に設定し、11月に中間育成を開始した場合、翌年8月には平均殻長10mmに、11月には12～14mmに達していたことから、この収容密度の範囲での中間育成の期間は1年を要する。

(2) 育成開始時の収容密度

取上時には10mm以上の個体が1籠あたり最大で4千個生産できることがわかった。よって育成開始時の収容密度を4千個／籠より低密度に設定することは非効率的であると考えられた。(平成14年度)

育成開始時の収容密度を6千個、8千個、10千個／籠に設定した。その結果、収容密度が低いほど取上時の10mm以上の個体割合は高く、6千個／籠で最も効率良く、10mm以上の個体が生産できると考えられた。

2カ年の結果から育成開始時の収容密度は6千個／籠前後が適当であると考えられた。

4 その他の資料等

なし